

[野菜部門]

16. 黄ニラ栽培における品種特性

[要約]

近年、栽培されている青ニラ用品種の黄ニラ生産における収量、品質及び「ずるけ症」発生程度について明らかにした。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

黄ニラは青ニラ用品種を軟化栽培することで生産するが、黄ニラ生産における品種特性に関する報告は少ない。そこで、近年黄ニラ生産に用いられている品種の特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

(「スーパーグリーンベルト」対照)

1. 「ワンダーグリーンベルト」：収量は5～10月は同等であるが、12月はやや多い。平均重量は年間を通してやや重い。葉身の黄色発色は薄い。「ずるけ症」の発生はやや多い(図1、2、3、4)。
2. 「サンダーグリーンベルト」：収量は5～10月は同等であるが、12月はやや多い。平均重量は年間を通してやや重い。葉身の黄色発色は同等。「ずるけ症」の発生はやや多い(図1、2、3、4)。
3. 「パワフルグリーンベルト」：収量は少なく、12月は収穫できない。平均重量は、5～8月はやや重い、10月は軽い。葉身の黄色発色は濃い。「ずるけ症」の発生はやや多い(図1、2、3、4)。
4. 「ミラクルグリーンベルト」：収量は5～10月は同等であるが、12月はやや少ない。平均重量は5～10月は重い、12月は同等。葉身の黄色発色は5～8月は薄い、10～12月は同等。「ずるけ症」の発生はやや多い(図1、2、3、4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 供試品種は、いずれも青ニラ用品種である。
2. 「サンダーグリーンベルト」の種子は、発芽不良のため2014年から販売中止となっている。
3. 平成25年度主要成果に基づき、軟化栽培途中に短時間太陽光に露光する「日入れ処理」を行うと、すべての品種で黄色発色は向上する。

[具体的データ]

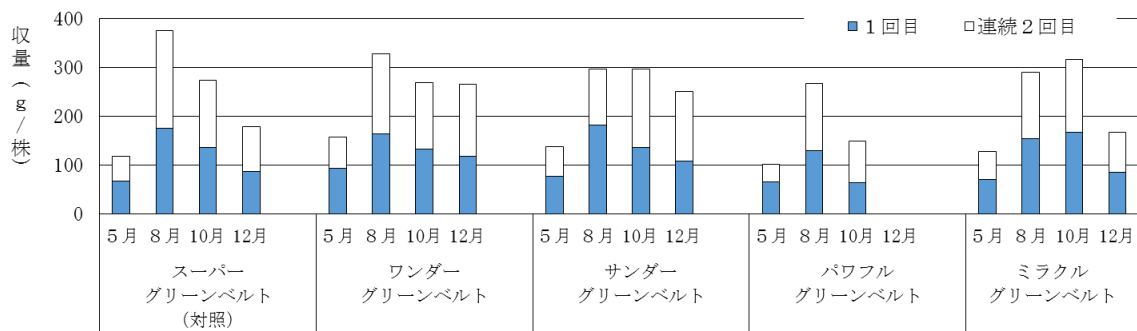


図1 時期別収量の推移

注) 耕種概要: 播種日: 2013年5月13日、定植日: 2013年9月11日、
軟化栽培期間: 露地栽培 (2014年5~10月)、ハウス栽培 (2014年12月)

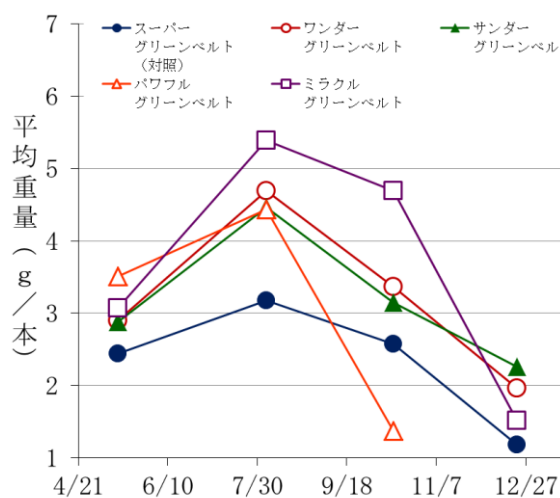


図2 1本当たり平均重量の推移

注) 耕種概要: 播種日: 2013年5月13日、定植日: 2013年9月11日、
軟化栽培期間: 露地栽培 (2014年5~10月)、
ハウス栽培 (2014年12月)

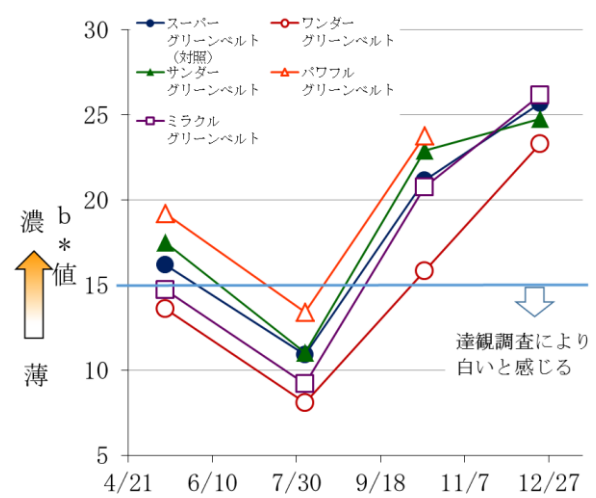


図3 黄色発色程度の推移

注) 耕種概要: 播種日: 2013年5月13日、定植日: 2013年9月11日、
軟化栽培期間: 露地栽培 (2014年5~10月)、
ハウス栽培 (2014年12月)

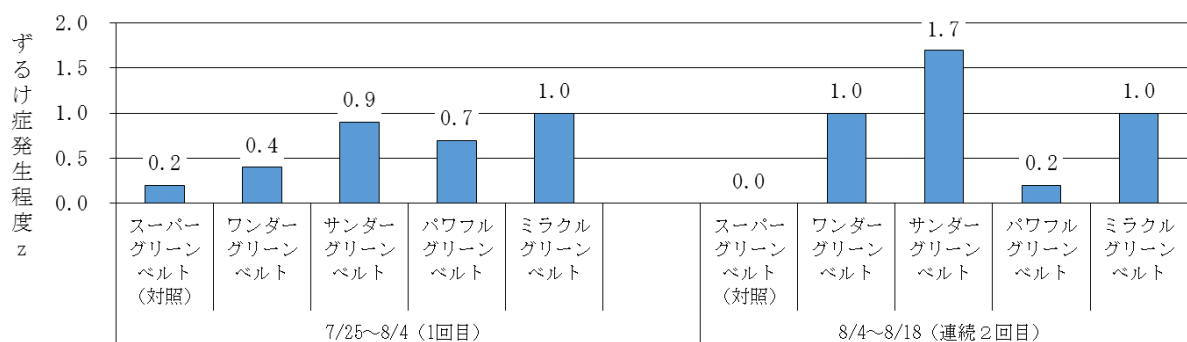


図4 高温期の「ずるけ症」発生程度[※]

※ 「ずるけ症」発生程度; 達観調査による0~5の6段階評価

[その他]

研究課題名: 黄ニラ高品質・安定生産技術の確立

予算区分: 県単 (産学連携受託事業)

研究期間: 2013~2015年度

研究担当者: 岡修一

関連情報等: [平成25年度試験研究主要成果、57-58](#)